

# 研究会報告資料

第1回『特別委員会：新しい時代の自治体のあり方の研究』（オンライン研究会）新しい時代の自治体のあり方を考える：精神的・経済的に自立（自律）した自治体の創生に向けて

2021年

8月7日（土）13時～16時

- ① 自治体のガバナンスとリーダーシップの現状と課題、「その問題点の明確化と解決策」を考える

青森公立大学 遠藤 哲哉

# 地方財政論

- 2000年の地方分権一括法
- 地方財政制度は、中央集権の下で実施
- 国庫補助、地方交付税、地方交付税の補助金化（補助金の裏負担として地方交付税、地方債が使われる）
- 地方財務上の課題
  - 二元代表制の下で、行政サービスの肥大化傾向（穂坂、2007）
  - 地域社会問題の解決に縦割り（中央省庁）で対処、ムダ

# リーダーシップ

- 二元代表制の下での、首長と議会の衝突（穂坂、2007）  
首長：予算編成権、政策機能、執行権  
議会：議決権、監視機能と牽制機能（多数の議員）
- 一元代表制の下でのリーダーシップモデル（米国）  
ファシリタティブ・リーダーシップ（Svara, 2008）  
議会（少人数の市会）：政治的権限は議会、  
執行権限はシティ・マネジャー  
サーバント・リーダーシップ（GreenLeaf, 1977）  
議会（管理機能、トラスティ）と  
シティ・マネジャーによる経営

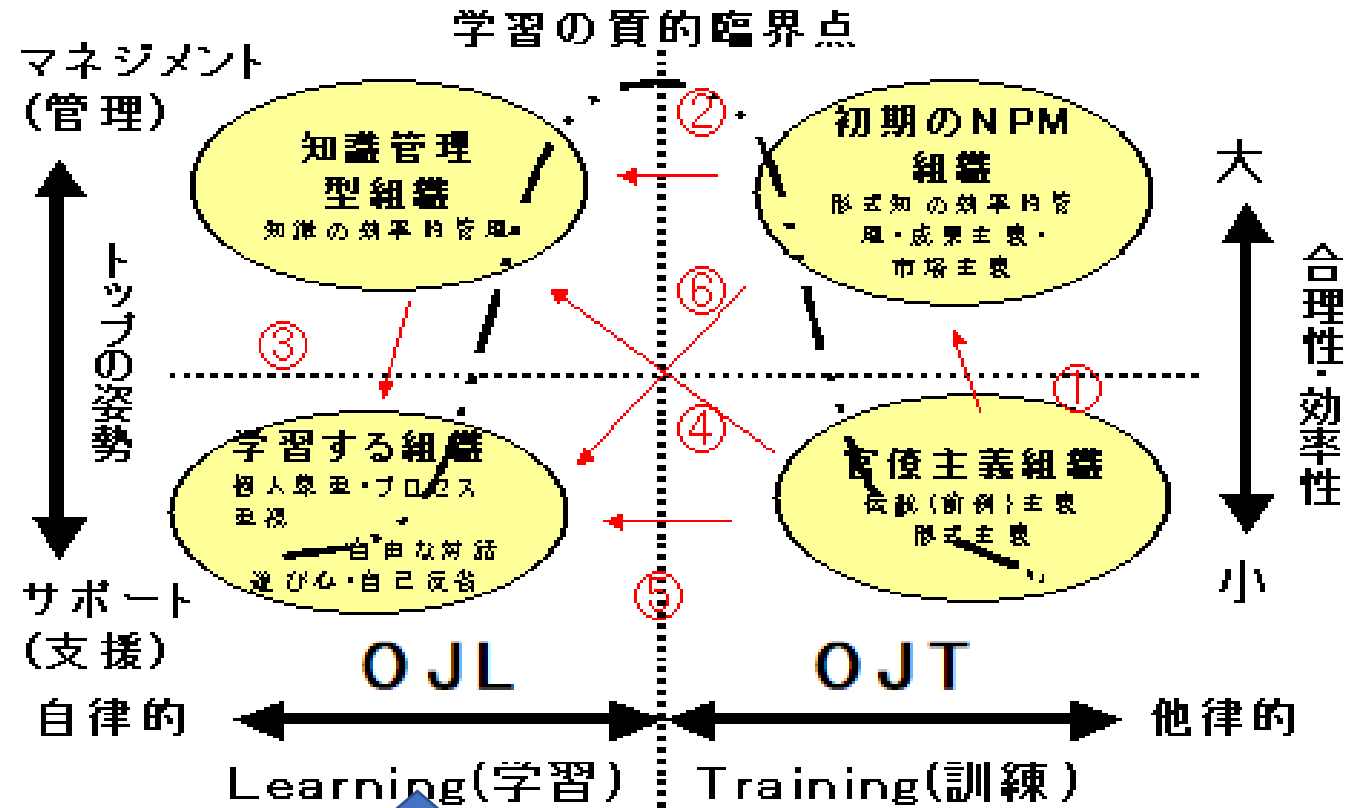
# 現状と課題

- (1) 米国の一元代表制を含む住民選択的統治システムの存在
- (2) 行財政は、中央集権構造（日本）
  - 「中央－自治体」ガバナンスの構造改革
    - \* 民主的な「中央－自治体」自律経営
    - 哲学・理念と実践知を大切にした、社会の活性
- (3) リーダーシップの現状と課題
  - 利己的、過度の競争、成果主義
    - \* 新しい社会的価値の創造、個々の成長
    - 人間形成（Greenleaf、1977）

# 新コミュニティイノベーション (NPCI)

NPCI：メリット、上記各モデルの優れた点を活かしつつ、理念的なプラグマティックな政策立案と執行を行うが、地域経営の視点を重視し、特に、「コミュニティ・イノベーション」をベースに様々な地域ビジネスを展開できる自治体経営モデルである。コミュニティ・イノベーションとは、コミュニティ（地域性、共同性：しかし、必ずしも特定の地域性＝地理的範囲に限定されない、特定の共通の理念、関心に基づく共同性もここでは含む）における創造的行為を意味する。

## 組織スタイル移行戦略



新公共サービス (NPS)

新価値ガバナンス (NVG)

出典：遠藤 (2019) P. 264

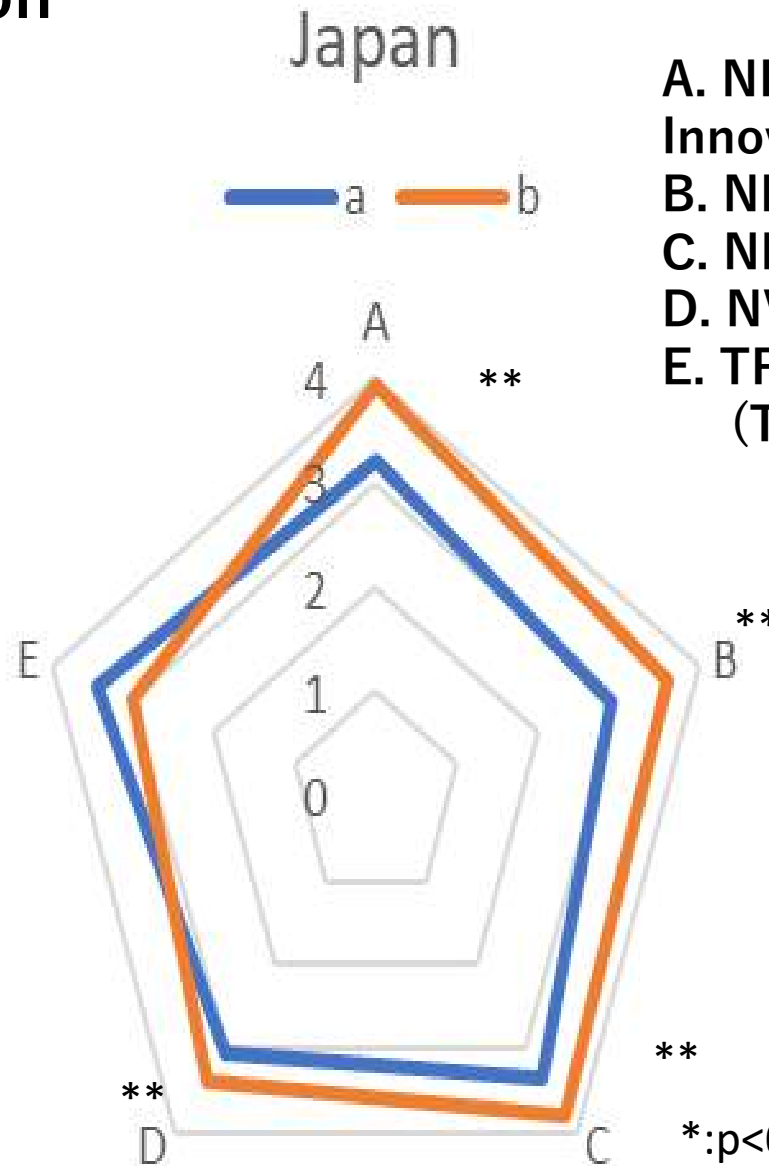
# (Fig. 4) Public Administration Style Preference (Japan)

For letter **a**, circle the number to indicate how it is being implemented in your local government.

For letter **b**, circle the number that indicates how significant you believe it is in future administration. (**5** being the highest means that it is being implemented and very significant while **1** means that it is poorly implemented and has less significance.)

Questionnaire Sheet: PASS  
(Public Administrative Style Scale)

[https://docs.google.com/forms/d/1IXZC7AWu8lhjeKUwPbf4-yMnNOfnZtTLew7UqckNm\\_Q/edit](https://docs.google.com/forms/d/1IXZC7AWu8lhjeKUwPbf4-yMnNOfnZtTLew7UqckNm_Q/edit) (Endo, 2019)



- A. NPCI (New Public Community Innovation)
- B. NPM (New Public Management)
- C. NPS (New Public Service)
- D. NVG (New Value Governance)
- E. TPM (Traditional Public Management)

\*:p<0.05    \*\*:p<0.1    N=39

The preliminary survey  
August 26th to 30th, 2019.

# 将来展望

- 自治体ガバナンスのシステム・構造改革
  - 一元代表制を含め、優れた自治体経営が可能となる
  - ガバナンスシステムを住民が選択できる制度の導入
  - 特区で社会実験、一元代表制（議会ーマネジャー制）の試行  
（穂坂、2007）
- 優れたリーダーシップの実践的人材育成システム開発
  - 組織、制度の中で人材は成長する（Greenleaf, 1977）
  - 大学、企業、社会に組み込んで、成長できる「場」の創造

## (2) 公開シンポジウム論点

① 遠藤報告の自治体統治システムとしての「二元代表制」と「一元代表制」について

新しい時代における自治体統治システムとしての「二元代表制」と「一元代表制」の両者メリットとデメリットと日本の自治体の改革の方向性について

- 二元代表制のメリット、デメリット：メリットは、1) 首長・官僚機構による政策立案と執行、そして議会によるチェックを分担してできること。デメリットは、政策の立案・執行とチェックが分離し建設的なチェックが出来にくいこと。2) 首長側に強力なリーダーシップを期待したい場合、議会によるチェックを受けることで、執行できやすい。デメリットは、首長の専制を招きやすい。議会に野党が多くいる場合、首長の政策を実現しにくい。また、実験的でイノベーティブな政策の執行が難しい。（議会が与党化している場合は、可能）
- 一元代表制のメリットは、1) 一元的に検討、執行できる。2) 議会—マネジャー制の下で、行政専門官に経営を委ねることができる。デメリットは、行政専門官の力量が問われる。そのため、政策と行政との有機的関係を前提に、特に行政官（シティマネジャー）は、住民と理念に尽くす「サーバントリーダーシップを発揮すること」が求められる。



## ② 遠藤報告での提言である「二元代表制」を「一元代表制」への移行する場合の具体的な方策について

- 特区制度を拡充し、一元代表制を可能とする社会実験的実践を可能とする。（埼玉県志木市の特区申請は、憲法93条の規定に抵触するという内閣法制局の解釈により却下されているが、再度可能性を追求）
- 参考：憲法93条

第九十三条：地方公共団体には、法律の定めるところにより、その議事機関として議会を設置する。地方公共団体の長、その議会の議員及び法律の定めるその他の吏員は、その地方公共団体の住民が、直接これを選挙する。

→ 憲法上は「議会を設置することと、長、議会の議員は、住民が直接選挙する」という規定であるから、「一元代表議会（市会）を設置し、住民が長、議員を直接選挙し、議会（市会）が長の下に執行体制を組織化することが可能と解釈できないだろうか。そして、一元代表市会が専門職としてのシティ・マネジャー（あるいは、副市長）を雇用する。そのシティ・マネジャー（副市長）の下に、執行体制を確立する。

③ 遠藤報告の「伝統的行政経営」：（法規に基づく「漕ぐ」モデル）、  
「NPM（新公共サービス経営）」：（効率的に成果を上げる「舵取り」モデル）、  
「NPS（新公共サービス経営）」：（理念の尽くすサーバントモデル）  
「新価値ガバナンス」：（理念的サーバントモデルをより憲法上の  
民主的価値に基づき多様に展開したプラグマティズムモデル）の各々の  
メリットとデメリットについて

伝統的行政経営： メリット、法規に基づく政策立案、執行（行政腐敗、汚職への歯止め）、デメリット、政策イノベーションが  
起こりにくい

NPM：メリット、企業経営のような効率性、デメリット、理念  
を持たないと効率性のみの経営に墮する

NPS：メリット、理念重視。デメリット、効率性

NVG：メリット、憲法や民主的価値に基づくプラグマティズム、  
デメリット、地域経営の視点が欠ける

## ④ 遠藤提言の「新公共コミュニティ・イノベーション（NPCI）モデル」の具体的な内容と日本の自治体改革の実現可能性について

**（1）NPCIモデルの具体的な内容：** 従来より経験してきた各モデルの優れた点を活かして、地理的範囲に限定されない、特定の共通の理念、関心に基づき展開した各モデルの重視し、必ずしも特定のおける創造的行為を意味する。

### （2）日本の自治体改革の実現可能性：

- 1) ガバナンスシステム：住民が統治システムを選択できるシステムの導入（最終的に住民が選べる直接住民投票・熟議システムを組み込む、そして、住民の判断により、一元代表制も可能とする）
- 2) 自治行財政論：国庫補助金のウェートを低め一般交付金化を進め、その上でさらに自主財源のウェートを増やす
- 3) 行政・議会改革、実験・討議の充実、住民投票制度の充実（熟慮民主主義）
- 4) 地域大学の役割（政策検討・実験・政策イノベーションの機会の拡充）
- 5) ICT活用の拡充
- 6) 地域リーダーシップの発揮、育成の機会

## 参考文献：

- 遠藤哲哉（2019）『「地域経営」における価値創造～新しい自治体経緯を志向して』現代図書。
- 穂坂邦夫（2007）『シティマネジャー制度論「市町村長を廃止する」』、埼玉新聞社。
- James H. Svara（2008）, The Facilitative Leader in City Hall, CRC Press.
- John M. Bryson, Barbara C. Crosby, and Laura Bloomberg (2014), 'Public Value Governance: Moving beyond Traditional Public Administration and the New Public Management,' Public Administration Review, July /August.
- ロバート・K・グリーンリーフ（2008）『サーバントリーダーシップ』英知出版。  
/Robert K. Greenleaf (1977), Servant Leadership, Pulist Press.
- 野中郁次郎・紺野登（2012）『知識創造経営のプリンシプルー賢慮資本主義の実践論』、東洋経済新報社。
- Tetsuya Endo (2020). "Japanese Local Management in times of Covid-19～From the View point of "New Public Community Innovation" Mizoram, India conference.

研究会報告資料： 第2回「大学間連携に関するオンライン研究会」

「フィリピンのセブ・ノーマル大学との大学間連携による大学教育の質保証」

遠藤哲哉（青森公立大学）

研究室で学ぶ学生にとっては、国際化時代において、海外の学生や研究者と交流する中で、個の切磋琢磨と併せてチーム、組織、システム全体を見る目を養い、実践知を育てていく必要がある。地域イノベーションは“現場”で創発するのであり、そのプロセスに内在しつつ研究していく必要を感じ、プロトタイプ型実践的研究の方法を採用した。具体的には、遠藤研究室を専門コミュニティに見立て、ネットワークに繋がる地域コミュニティや海外コミュニティ（現在、フィリピンセブ）と連携し、プロジェクトを動かして課題を発見し、モデルの精緻化を図っていく方法（＝プロトタイプ型実践的研究）である。理論書を片手に研究室から出て、フィールドワークを駆使しつつ検討を深めていくのである。そして、このプロトタイプ型モデルの有用性、発展性を検討する中で、生まれたのが、“協働”優位の戦略の視点である。様々な利害を超えて、異質な個人や組織とどのように連携し、課題を克服し、ビジョンで一致し困難を乗り越えていくか。それは、市場における競争優位という概念を一端留保して、“協働”の視点からアプローチしていくことである。

今回の報告では、フィリピン、セブ（セブノーマル大学関係研究者）とのネットワークを使い、地域イノベーション創発を志向した有志による大学間連携実践について行った。「地域（観光）資源活用型、地域リーダーシップの国際相互育成コーチング」モデルを作り、実際にフィリピンのセブと Zoom で、実践的研究を継続的に行ってきた。そのポイントは、「コーチング型コミュニケーションによる実践的英語習得とコミュニティビジネス開発リーダーシップ、及び“場”の創造」である。アンケート調査は、オンライン型とし、Zoom を使った半構造型インタビューとして実施することとした。

本研究プロジェクトでは、コロナウィルス禍において、その問題の克服にもつながる地域イノベーション創造について、実践的に検討し、地域活性やビジネス起業を通じて、地域産業の振興に貢献していけるようにしていくことを目指した。本事業を通じて、青森市・青森県の地域イノベーション創造、自治体経営戦略についての知見が深まり、今後の地域経営振興に効果的な役割を果たすことができれば幸いである。この実践プロセス経過は、概略以下のようなものである。

セブノーマル大学の先生、学生を紹介される（2019年2月）

・セブノーマル大学の非営利実践的学術団体（CADAPHI）の全国第 2 回研究会に招待される

- ・基調報告（2019 年 5 月）
- ・その後、3 回目の訪問の際、当時 2 年生の学生 4 人と大学訪問（2019 年 9 月）
- ・CADAPHI より、2 人の幹部教員を招へい（財団）（2019 年 11 月）
- ・バーチャル Community MICE のアイデアと実践（2020 年 4 月～）
- ・バーチャルオンライン Micro Webinar のアイデアと実践（2020 年 4 月～7 月）

・幹部教員の一人、Ana 先生とセブの学生とのオンライン交流開始（2020 年 9 月～2021 年 7 月）

- ・英語手話とフィールドワーク動画交流（2020 年 9 月～2021 年 7 月）
- ・テキスト（リーダーシップの英語テキスト）交流（2021 年 3 月～6 月）

・以下、3 つのフェーズに分けてプロジェクトが実施されることとなる。（以下）  
2021 年度実践的研究プロジェクトの過年度と関連しつつ開始

セブ・青森プロジェクト（2020.4 月～2021.7）

- 第 1 フェーズ：現 4 年生・3 年生のプロジェクト主体（観光動画、英語手話）
- 第 2 フェーズ：英語手話、ジョン・マクスウェルのリーダーシップ論テキスト交流（英語）、国際的地域リーダー養成を意図
- 第 3 フェーズ：現 1 年生の自己の探求（英語手話、自己の探求フィールドワークの英語での紹介・コミュニケーション）他

（2021 年地域経営学会研究報告 9 月 27 日（月）16：30～19：30）

「青森公立大学経営経済学部地域みらい学科の教育課程と教育方法の特色—大学間連携教育、学産官連携教育の現状と今後の課題を中心に—」

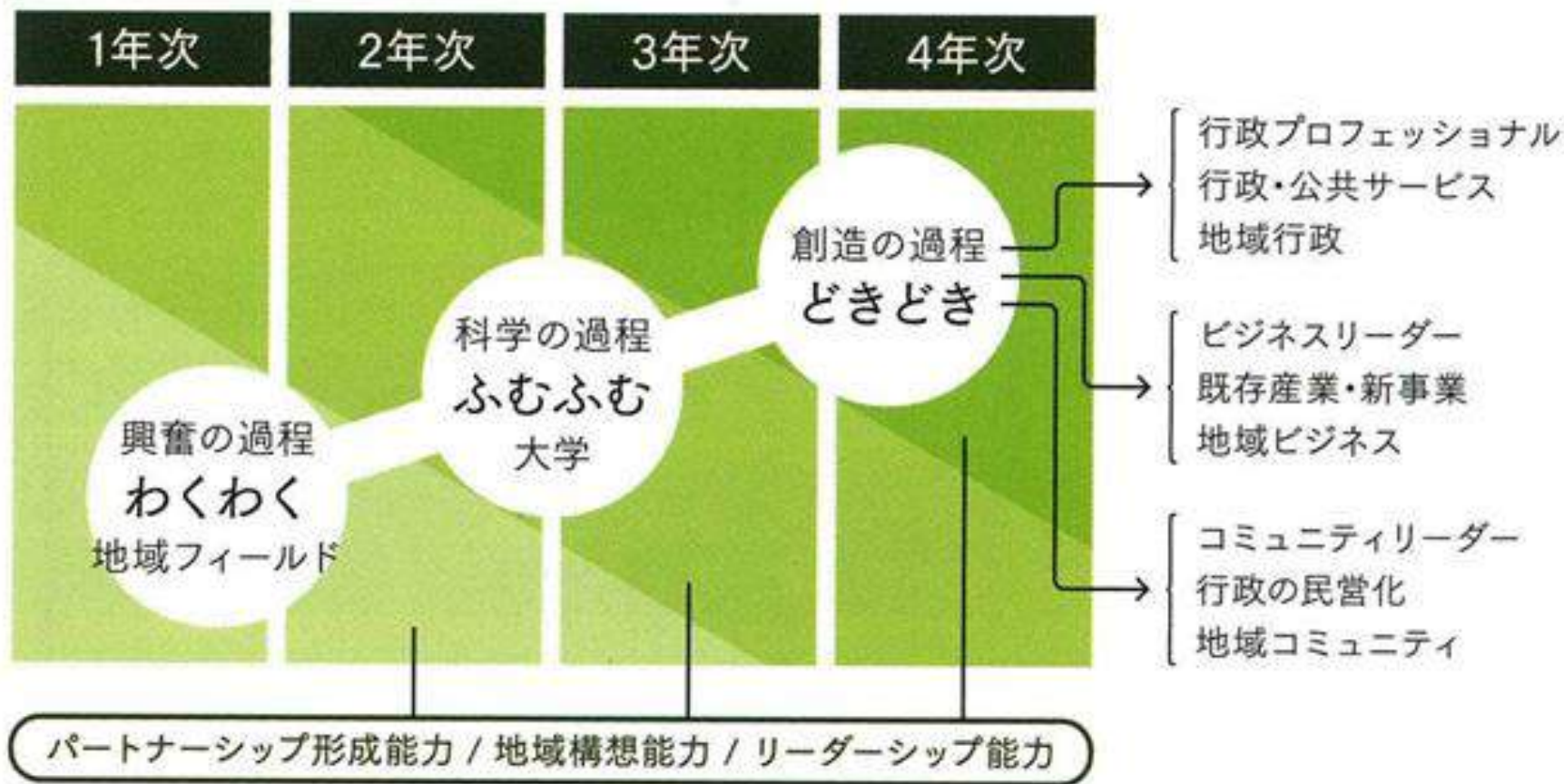
地域経営学会、大学間連携教育・学産官連携教育研究特別委員会主催

2021 1129

青森公立大学： 遠藤 哲哉

# ○最大の特色は「**少人数ゼミ**」による**フィールド**や**実践**からの**学び**

## 「**知の冒険計画**」の3段階による教育方法





# 地域みらい学科の特徴

- 地域みらい学科は、学部で開設される3学科の中でもっとも学際的性格を有しており、学士教育を念頭に置いた学科といえる。
- 当該学科は、1年次において地域の現実を学ばせ、それに関わる地域の問題を検討する一連の過程を重視する。
- 1年次秋学期に、地域のあり方（実態）を客観的に、かつ多様な視点から認識するための講義科目「地域形成基礎論」を開講している。
- 2年次からは、1年次に得た経験や知識を経営経済の観点から捉えなおしたのち、学生の将来のキャリア希望に応じた2つの履修モデルである「地域ビジネスリーダー」と「地域コミュニティリーダー」へ展開する。
- 地域ビジネスリーダーは「修得した地域ビジネスの基礎を活用して地域ビジネスにおける諸問題の解決策を探求」することに主眼を置いており、「地域企業論Ⅰ及びⅡ」、「マーケティング論Ⅰ及びⅡ」、「地域と産業政策」等で構成される。
- 地域コミュニティリーダーは「修得した行政・自治体経営の知識を活用し、『公』の視点で地域課題の解決策を探求」することに主眼を置いており、「地域社会論Ⅰ及びⅡ」、「自治体経営論」、「地域ICT基礎論」等で構成される。（出典：点検・評価報告書 2018（平成30）年度申請）

○学生の「感動」「驚き」「わくわく」感を大切に、  
素晴らしい社会創造に向けた「実践知」の創造へ  
(演習ゼミの特徴説明時に使用)

---

小人数、フィールドワーク実践プロセス例

(1) 感性を磨く、共感

- ・地域社会の対象に迫る

～当事者が何を考え、課題と感じ、どのように克服に向けた意識を持ち、行動を行っているのかを探索する。

(2) 自己の思い、感覚をまとめる

- ・暗黙知、形式知に迫る

～思いをできるだけ共有し、地域課題に内在しつつ、思いをまとめる。

(3) 実践への志向

- ・小プロジェクト化

～ささやかかもしれないが、自己の思いを地域で形にする。

# 科目の内容、課題

- 自己の探求：4単位 1年次春。当初ゼミ所属は希望、しかし希望がゼミで偏在するため、現在は抽選で、6人～7人程度。現在、教員8人。1週間に金曜日午後13時～16時20分、2時限(午後)、4月に1泊2日で、合宿(県内)。終了でゼミ解散。
- 自分知の探求、科学知の探求：各2単位 1年次秋。クラスを3つに分け(教員2人担当)、秋学期各2単位。主にグループワーク。
- 知の探究Ⅰ,知の探究Ⅱ：通年4単位 2年生、3年生。週に1回、1時間半。この単位に合わせて、「フィールドワーク」の科目(各2単位)を設定 2年生秋、3年生春秋 各2単位ずつ。課題は、フィールドワークを行う場合、学生の他の授業と重複しないように設定する必要があるが、難しい 場合多々ある。
- (例：知の探究Ⅱ(3年演習ゼミ)、金曜日3時限を学生が空いている2時限にし、12時50分まで延長。現在は、青森市内の食堂・レストランの調査・情報発信。/ 知の探究Ⅰ(2年生演習ゼミ)、金曜日4時限のみであるが、フィールドワークができないので、空いた3年生の3時限目を活用し、3時限ー4時限を確保、フィールドワークを実施。
- 卒業研究；通年4単位

# 事例) 遠藤ゼミの場合

- **自己の探求(1年生春8人)**: 自己紹介・地元紹介・実践研究興味紹介のHPを多言語(日本語・英語)作成(自分、地域、海外ネットワーク・セブとの交流)→ **学生ビジネスコンテスト公立大学内優勝獲得**(12月12日に市内大学間でコンテストあり)、プロジェクトテーマ(ホタル観光で浅虫の活性、3人出場) 連携→ セブノーマル大学、地域連携センター・ハイエース、フィールドワーク先(ELM、県立美術館、浅虫水族館、あおもり21他)
- **知の挑戦 I (2年生5人)**: 県内自治体経営地域調査(田舎館村、大鰐町、黒石町)、調査テーマ→ **歴史と伝統を活かす自治体経営、連携**→各役場担当者、ハイエース、フィールドワーク先)
- **知の挑戦 II (3年生5人)**: プロジェクトテーマ→コロナ禍の下での市内食堂・レストラン経営、地域調査、連携→ **各食堂等**
- **卒業研究(5人+旧木暮ゼミ5人)**: 地域活性化型バーチャルインバウンド国際観光、**(株)わたなの実践**関連他、連携→関係団体、木暮先生(現、ソフトバンク、一般社団法人)

# セブノーマル大学(フィリピン)との連携: 非公式研究室間連携 (2019年3月~)

- 前回紹介の取り組み(各学年で、英語、英語手話・歌、リーダーシップ文献、フィールドワーク内容紹介、Zoomにより実施)
- 11月25日(木)、Zoomで、セブノーマル大学主催の学生研究報告会に参加(報告14時~18時)
- 10の分科会、364人の発表(1チーム10分、Zoom)
- 遠藤ゼミ、各学年1チーム出場。事前に10分間の発表動画を作成、当日放送の形。
- 学内の情報担当部署と連携、アクティブラーニング室で収録(11月19日(金)、1時限ずつ確保、1年生~3年生、20日(土)4年生)

Cebu Normal University - College of Teacher Education  
in partnership with the  
Institute for Research in Innovative and Instructional  
Delivery (IRIID)

**8th International (9th National)**

# TESTCon

**(Teacher Education Students' Conference)**

November 25, 2021

**THEME:**

**Research-based Reforms in Education: Then, Now, and Beyond.**

This virtual conference will gather students both in the graduate and undergraduate degree programs and researchers of other regions throughout the world to share their research findings and experiences.

This virtual conference is FREE and can cater 600 presenters and participants. For more information, please contact DR. HELEN BOHOLAND and DR. BLANCA ALEJANDRO at [cnutestcon2021@cmu.edu.ph](mailto:cnutestcon2021@cmu.edu.ph).

To register, please visit the QR code



OR click  
<https://forms.gle/BJ4akJh9Hf7o6kx7>

Abstract submission: September 1, 2021 - November 15, 2021  
Send the abstract to: [cnutestcon2021@cmu.edu.ph](mailto:cnutestcon2021@cmu.edu.ph)

NOTE: Abstract must not exceed 250 words





[https://issuu.com/clangalejandro/docs/final\\_proceedings-testcon2021](https://issuu.com/clangalejandro/docs/final_proceedings-testcon2021)



Republic of the Philippines  
**CEBU NORMAL UNIVERSITY**  
Osmesa Blvd., Cebu City, 6000 Philippines



**COLLEGE OF TEACHER EDUCATION**  
Center of Excellence (COE)  
Level IV Accredited (AACUP)  
Telephone No. (052) 251 8944  
[cmu@cmu.edu.ph](mailto:cmu@cmu.edu.ph)  
Website: [www.cmu.edu.ph](http://www.cmu.edu.ph)

September 15, 2021

Dear Sir/Madam:

Greetings!

Research plays a significant role in facing the challenges of this globally interconnected world as it enhances the overall quality of education. Conferences are great settings in which to initiate collaborations because of the many opportunities they provide for one-on-one scientific discussion. In this connection, Cebu Normal University College of Teacher Education in partnership with the Institute for Research in Innovative and Instructional Delivery (IRIID) would like to invite you and your students to participate in the 8<sup>th</sup> International (9<sup>th</sup> National) Teacher Education Student Conference (TESTCon). This research conference will gather students in the graduate and undergraduate degree programs and researchers of other regions throughout the world to share their research findings and experiences. This will be held November 25, 2021, 8:00AM to 5:00 PM, Philippine time, with the theme "Research-based Reforms in Education: Then, Now, and Beyond".

Sub-theme: Sub-themes:

Flexible Learning Delivery  
Education for Sustainable Development  
Cultural Diversity in Education  
Gender Sensitivity in Education  
Problem-Based Learning  
Environmental Safety  
Health Education in the New Normal

Remote Learning  
Technology in Education  
Flexible Assessment  
Peace Education  
Outcome-Based Learning  
Entrepreneurial/Financial Education  
Publics and Good Governance

Submission of abstract starts on September 1, 2021  
Deadline of abstract submission: November 15, 2021

Please send your research abstract to: [cnutestcon2021@cmu.edu.ph](mailto:cnutestcon2021@cmu.edu.ph)


This virtual conference is FREE that can cater 600 presenters and participants. For more information please email to [cnutestcon2021@cmu.edu.ph](mailto:cnutestcon2021@cmu.edu.ph) or [clangalejandro@cmu.edu.ph](mailto:clangalejandro@cmu.edu.ph). We will greatly appreciate if you can pre-register on or before November 15, 2021 to decrease the number of participant.


Very truly yours,

  
HELEN B. BOHOLAND, Ed. D.  
Research Chair, CTE

  
REMEDIOS C. BACUS, Ed. D., Ph. D.  
Office-in-Charge, CTE

Noted by:

  
LAURENCE GARCIA, DSEn  
Director, Center for Research & Development

  
ANGELINA M. POGOY, Ed. D.  
VP for Research, Extension & Publication

  
DAISY R. PALOMPON, Ph.D., DSEn  
VP for Academic Affairs

  
FIDESMA F. DAYAGBIL, Ed. D.  
COI, Office of the University Pres.



# 当日、学生研究報告要旨集 (プロシーディングス)

major theme revealed that the students, regardless of their learning modality, encountered problems using the learning modules in terms of its structure, content, as well as the contributing external factors such as connectivity issues, lack of student-teacher interaction, and the distraction in the learning environment.

Keywords: Blended Learning Modules, Distance Learning Modality, Modular Distance Learning, Modular Elements, Online Distance Learning, Self-Learning Modules

### BREAKFAST SESSION 10

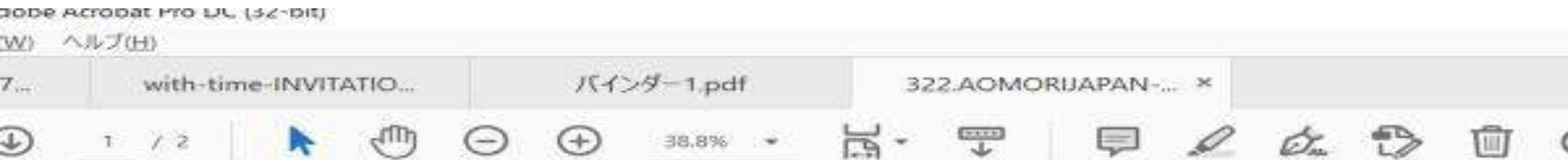
Session Moderator: Ms. April Mari G. Ordillo

Co-moderator: Dr. Janelle Jumao-as

Author/s	Title of the Study	Institution
310 Axel Rose M. Tabilog, Charles P. Ascario, JR. D.	Policy Development Program of Water, Sanitation and Hygiene in School (WASH) in Cebu-Davao District, Basil, Philippines	Cebu-Davao Central Division First School Central Davao State University of Agriculture
311 DEKTERI, QUART	Automated Control Step Motor and Stepper Machine	University of Science and Technology of the Philippines Cagayan de Oro City, Mindanao
312 Gelle Grovera, Cecilio GAZON, Rino-ALINDOJA, Isaacula GABRINA B., and Valerie MALAYATA	Result of International Exchange between Students in two Universities (Luzon & Cebu): To Advance the Study on the Effects and Promotions to Restaurants by COVID-19 in Zamboanga	Zamboanga Public University
313 Gelle Grovera, Ryo-DAIJI, Junia YAMAGUCHI, Ruffa TUGAYAMA, and Grace HORODE	New Tourism in England under the Covid-19	Zamboanga Public University
314 Shuta OZUMOTO, Aika SATO, Shochiro NISHIO, Kazuhiro SALAMI, Keisuke EDINA	Local Administrations Being Promoted with Their Unique Historical and Local Resources in Aomori Prefecture	Aomori Public University
315 Erioka Sato, Ayana Toyota, Sakie Kawata	315. American Sign Language's Impact on English Learning and Local Field Research: Focus on the international activity between Japan (Osaka) and Cebu	Aomori Public University

316 Hazelmar P. Bauzana, MATT, and Rhiza May M. Dela Cruz, BEST	INQUIRY-BASED SCIENTIFIC SKILLS IN TEACHING SCIENCE	Tulian Katunan State University (K. Katunan) Tacurung City, Tulian Eastern Visayas National High School (eun), Sulu, Sulu
317 Fabrice Mac R. Gumbel, Jhermie E. Lufibund	CHALLENGES ENCOUNTERED IN THE IMPLEMENTATION OF THE K-12 EDUCATION PROGRAM AMONG SENIOR HIGH SCHOOL STUDENTS IN SAKI (LAPULAPUL) HIGH SCHOOLS	Solten Kalandan State University, Philippines
318 Angelica B. Ladawan, Kimberly G. Mabuan, Maria Fe M. Marasat, Jan Jehu M. Manosa, Marie Cornelia S. Ramirez	Pupil's Perception on Parents' Involvement in their Academic during COVID-19 Pandemic	Philippine Institute of Technology, Marikina, Lungsod
319 Arvin John P. Pano, Vince Harold V. Pineda, Angelita Marilou P. Pano, Omar Saibona, Maria T. Laveza, EdD	Overcoming Challenges on Modular Teaching Approach: Coping Mechanisms and Best Practices of Educators during the Pandemic	Davao State University, Anjayan, Davao City
320 Pamela Ladawan O. Mafaleo, <sup>1</sup> Jemma T. Gato, <sup>2</sup> and Elizabeth W. Santos <sup>3</sup>	Metacognitive Strategies of Primary Teachers in a Synchronous Learning Environment in the New Normal	Dan Ramos College State University
321 NIA, JIMAR B. MARION, Susan E. Rajat, Ed D (+), Marilyn P. Sumbilla	STRATEGIC BEHAVIOR ON MATERIALS IN TEACHING MATHEMATICS	Batai Technological University - Marikina City, Cebu
322 SHARIP MAHEDUM A. GAMMAM	STRENGTHENING THE ISLAMIC EDUCATION OF THE MUSLIM LEARNERS OF KASABLAN NATIONAL HIGH SCHOOL THROUGH THE USE OF SMART LESSON INTEGRATION MATERIALS	Davao-Duero Sulu, Zamboanga Sulu
323 Orville Y. Gumbel <sup>1</sup> , Cheryl Ann P. Gumbel <sup>2</sup>	TRAINING COMMUNITY AS CONTENT FOR OUTDOOR SCIENCE LITERACY	Sekeloa A. Cerdano Integrated School, Cagoc State University, Marikina City, Marikina
324 Jeth Lim Gabato	Effectiveness of Self-Assisted Modular Instruction Towards Students' Mathematics Performance and Learning Experiences During Pandemic	Davao Technological University, Marikina Campus

# 学生報告について、①報告要旨承認、② 当日報告・参加証の発行



Republic of the Philippines  
**COED NORMAL UNIVERSITY**  
Cebu City, Cebu (Philippines)  
College of Teacher Education  
Telephone No. (032) 521 754 1433 Ext. 144  
Email: [ceod@cnu.edu.ph](mailto:ceod@cnu.edu.ph)  
Website: [www.cnu.edu.ph](http://www.cnu.edu.ph)

November 16, 2021

**Shota TSUNOBI**  
Akira SATO  
Shimane UNIC  
Etsuko SASAKI  
Etsuko SEDA  
Aomori Public University  
Japan

Dear Author's,

We are pleased to inform you that the abstract of your proposed paper entitled, "Local Administrators Being Frowned With Their Unique Histories and Local Resources in Aomori Prefecture" has been **ACCEPTED** for presentation in the 5<sup>th</sup> International and 2<sup>nd</sup> National Teacher Education Studies' Conference (TESSCO) which will be held on November 21, 2021 at the Cebu Normal University, Cebu, Philippines through Zoom platform.

The following information will guide you in your participation during the conference:

- **NO REGISTRATION FEE.** No registration fee for 8<sup>th</sup> International and 2<sup>nd</sup> National TESSCO. The registration link will be sent through your email prior to the conference and Zoom link will be sent to you after filling out the registration link.
- **ORAL Presentation 18 minutes VIDEO Format.** For your pre-recorded presentation, please send it to: Dr. Lolosa C. Dupas at [ldupas@cnu.edu.ph](mailto:ldupas@cnu.edu.ph) on or before November 20, 2021 for finalization and technical assessment purposes. When the file is too large to be sent through email, kindly save it on the cloud and send us the shareable link. For efficiency and to avoid technical problems, there will be moderators that will be tasked to facilitate the presentation of your videos. Unless necessary due to hyperlinks and other requirements, you may inform us ahead of time so we can arrange it during your presentation.
- **Attendance.** The presenter's online presence is required during the conference as there will be an open forum right after the research presentations.
- **Certificate of Recognition /Certificate of Participation.** Presenters will be recognized after the research presentations. For Group studies, only one certificate will be given bearing all the names of the members of the study. On the other hand, the certificate of participation will be given only to those who have filled out the attendance link during the conference.
- **Conference Proceedings and Program.** The Book of Abstracts and program flow will be sent to your email three (3) days before the conference.

Published by: (November 2021)  
For circulation to all the participants,  
please visit the link below:  
[www.cnu.edu.ph](https://www.cnu.edu.ph) or Email: [ceod@cnu.edu.ph](mailto:ceod@cnu.edu.ph)

Approved by: 202175



Certificate of Recognition  
/Certificate of Participation:  
Presenters will be recognized after  
the  
research presentations.



# 研究活動報告 動画収録の様子 2021. 11.19－20



# 国際学生研究報告 会

Teacher Education Students'  
Conference

## 当日の様子

2021.11. 25

14:00-18:00



## Teacher Education Students' Conference 分科会 (11.25)

### 364チームの発表、10分科会

- 大学生・大学院生、教育・地域研究領域、Zoomで録画当日放映の形（当初は、Zoom参加報告、確実な進行運営を考え、事前録画・当日放映形式）
- 問題意識—仮説—アンケート調査—データ分析、結論、提言

### Background of the Study

- One potential learning approach to improve acquisition of knowledge and skills is Inquiry-Based Learning (IBL), also known as exploration learning or inquiry-based education. It is a teaching and learning approach where teachers have leading questions for students to systematically explore the requisite information to solve problems (Kuhlthau et al. 2007; Goldman et al. 2010).



# Teacher Education Students' Conference 全体会 (11.25)

The screenshot displays a Zoom meeting interface with the following elements:

- Meeting Title:** Zoom ミーティング - Session 10
- Status:** レコーディング中 (Recording)
- Participants:** A grid of 15 video thumbnails. Visible names include:
  - S10\_Moderator\_April Marie Ardillo
  - Tessuya Endo@ Aomori Univ
  - S10\_Co-Moderator\_Jeraldine...
  - S10 Pre\_Cristian Capriles
  - S10 PRE\_CHRS... (Cristie Mae Gabales)
  - S10 Par\_Depcil Plando
  - STEFANY BULARON TURNO
  - S10 PRE\_MA. AINA B. MARITAN
  - S10 PRE\_HAU Carl Darrylle del...
  - PRE\_Elizabeth W. Santos
  - Par\_Kenneth Limpong
  - S10 Pre\_Marrian Grace Maban
  - OLIVER FAMULARCANO PABLO
  - S10 Par\_Tampang Liza Nur S.
  - Axel Rose M. Tabilog
  - Louie Kim Caratoo
  - S10 Pre\_Vernalyn M. Garcia
  - ZSibugay-Shariff Cammah
  - S10\_Pre\_Jer
  - JOYDORA
  - S10 Pre\_Aguilesa Ester
  - S10 PAR\_CTU-MBL Angelou H...
- Chat Window:** A message from Mark Louie Paulo: "Mark Louie Paulo から全員に Thank you CNU for letting us a part of this event." (Sent by JOYDORA)
- Windows Taskbar:** Shows the time 18:01 on 2021/11/25, temperature 16°C, and various system icons.

# (事例) 4年生、卒業研究、英語発表 (11.25)



New tourism in  
region under  
the Covid-19

Keita Hayashi

Aomori Public University

2021.11  
.25

# Aomori Public University & Cebu Normal University



Tourism



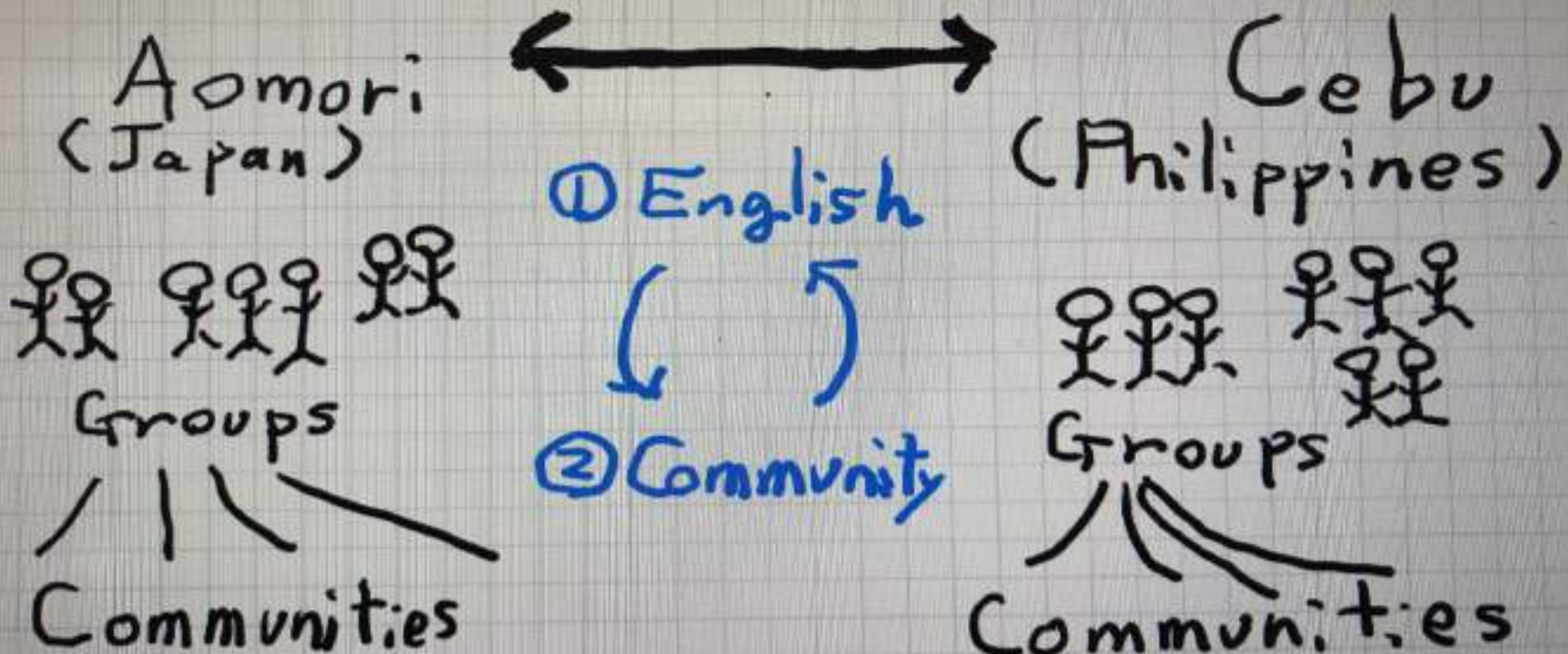
Education



# 今後の展望

- セブノーマル大学の担当教員より、親切な申し出があり、学生の英語指導をして下さる。教授クラスで、学生へ英語指導。フィリピンでは、コミュニティ開発志向の教育実践が期待されている。
- 私の提案として、Zoomを使い、ゼミ全体としてレベルアップする方法を模索。テーマは、地域フィールドワーク関連
- 。
- 大学間連携プロジェクトとして、実施する。「国際間地域フィールドワーク in Cebu & Aomori」
- 学部長レベルでの協定書を作成、本年12月26日までにプロジェクト内容を形にする。(申し合せ)

# 遠藤研究室大学間連携の取り組み、 図(海外、セブ&青森) 2021-2022





# (産官学金連携の可能性)

- ・社会実験モデルを作成、地域実践の中で、モデルを精緻化する努力を行う。
- ・今後、青森商工会議所、金融機関、青森市役所の経済部、青森県観光国際戦略局、県商工労働部、公益財団法人21あおもり産業総合支援センター、八甲田周辺事業所、市内ホテル、商工業者との連携が可能。また、その方向に進んでいくべき。
- ・青森県、青森市の当該セクションは行政実践の観点から、青森地域社会研究所、公益財団法人21あおもり産業総合支援センターは、地域シンクタンクとして、さらに商工業者、商工業者等は実践者の立場から、青森商工会議所、商工業者、金融機関等は実践者の立場から、それぞれの強み役割を活かして連携、協働し実施する可能性を模索する。
- ・具体的には、セブと青森のコミュニティ開発を念頭に、コミュニティ形成をベースとして、青森県は、県全体のMICE観光政策を、青森市においては、市のMICE観光政策の観点から、連携していく。
- ・公益財団法人21あおもり産業総合支援センターからは、国際取引や貿易に関する経済、ビジネスについての実践的な情報を提供してもらう。
- ・インターネットを通じた海外への地域PR等が可能となる。
- ・商工会議所、商工業者との連携においても、同様に県内の魅力ある店舗、商品やサービスについて紹介し、Zoom他のSNSでの発信が可能である。
- ・フィリピンの英語力と日本の経営力を合体し、地域イノベーションの創発へとリードする